

「玖珠町地方創生プロジェクト」の特徴

1. 地域活性に「障害者」が貢献

玖珠町で初めての就労継続支援事業A型の施設です。また、就労移行支援事業、共同生活支援事業（グループホーム）も開設します。大分県は障害者雇用率日本一を目指しており、就労継続支援事業所の整備により障害者のはたらく場所を増やす取り組みを行っています。玖珠町もその一環として郡域初のA型、就労移行支援事業所開設に力を注いでいます。

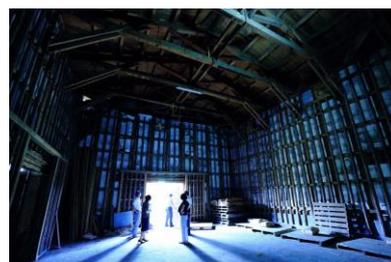
- ・就労継続支援A型 10名
- ・就労移行支援 10名

2. 全国的に珍しい「旧豊後森機関庫」

昭和9年完成の旧豊後森機関庫は現存する扇型機関庫と転車台としては全国的にも珍しく、九州では唯一の場所です。近代化産業文化遺産（経済産業省）認定、登録有形文化財（文化庁）に登録されています。玖珠町は、これまで「豊後森機関庫公園」としてミニトレインコース、工業デザイナー水戸岡鋭治氏デザインによる「豊後森機関庫ミュージアム」等を整備し、大分県もそれを支援し、一層の観光地化を図ってきました。

3. 昭和の原風景残る「旧森南部米倉庫」を活用

昭和初期に建てられた土蔵造りの倉庫をリノベーションし、多目的交流スペースとします。



リノベーション前の米倉庫内

4. 玖珠町の食材を活用した、安心・安全な食の提供

社会福祉法人暁雲福祉会のこれまでの製パン・カフェ事業の経験を生かし、また玖珠町の地産地消の食文化を感じられるメニューを地域の方と開発します。



リノベーションされた米倉庫

（完成予想図）

日本財団「はたらくNIPPON！計画」

日本財団は、2015年4月より「就労モデルの構築」と「人材育成」を2本柱として、障害者就労の環境改善を目指し「はたらくNIPPON！計画」プロジェクトを全国で展開しています。今回の「玖珠町地方創生プロジェクト」も本プロジェクトの一環です。